

JANOG33別府 地域（インフラ）事業者の葛藤と未来

株式会社帯広シティーケーブル
鵜野 直樹

自己紹介

- 北海道(十勝)帯広市のケーブルテレビ会社で技術業務(通信、放送)全般を担当
- 十勝毎日新聞社のグループ企業
- AS23629
- 前職は地元SIにて、自治体・企業向け業務システムのプログラマー、SE。
- 1999年に転職して今に至る
- DOCSISは扱ったことがない
- JANOG初発表

プログラムの目的

地域のインフラ事業者も様々な課題に直面しています。

私たち地域に生きるエンジニアは、

課題解決に必要な本質を把握できているでしょうか？

本プログラムは、日本の食文化である、「もったいないの心」「使い切るの心」を、地域インフラ事業者に適用した場合の現状、そして今後の道筋、

地域の多様性も踏まえながらも、「旬の素材を活かす」ことを、地域のエンジニア目線で考え、実践できるのかを考えてみたい。

要約すると

「もったいない」ことしてませんか？

あなたの地域の素材は「使い切って」ますか？

地域に生きるエンジニアが、「旬の素材を活かす」ことの本質を皆さんと共有したい

登壇者紹介

- 鵜野 直樹

- 株式会社帯広シティーケーブル

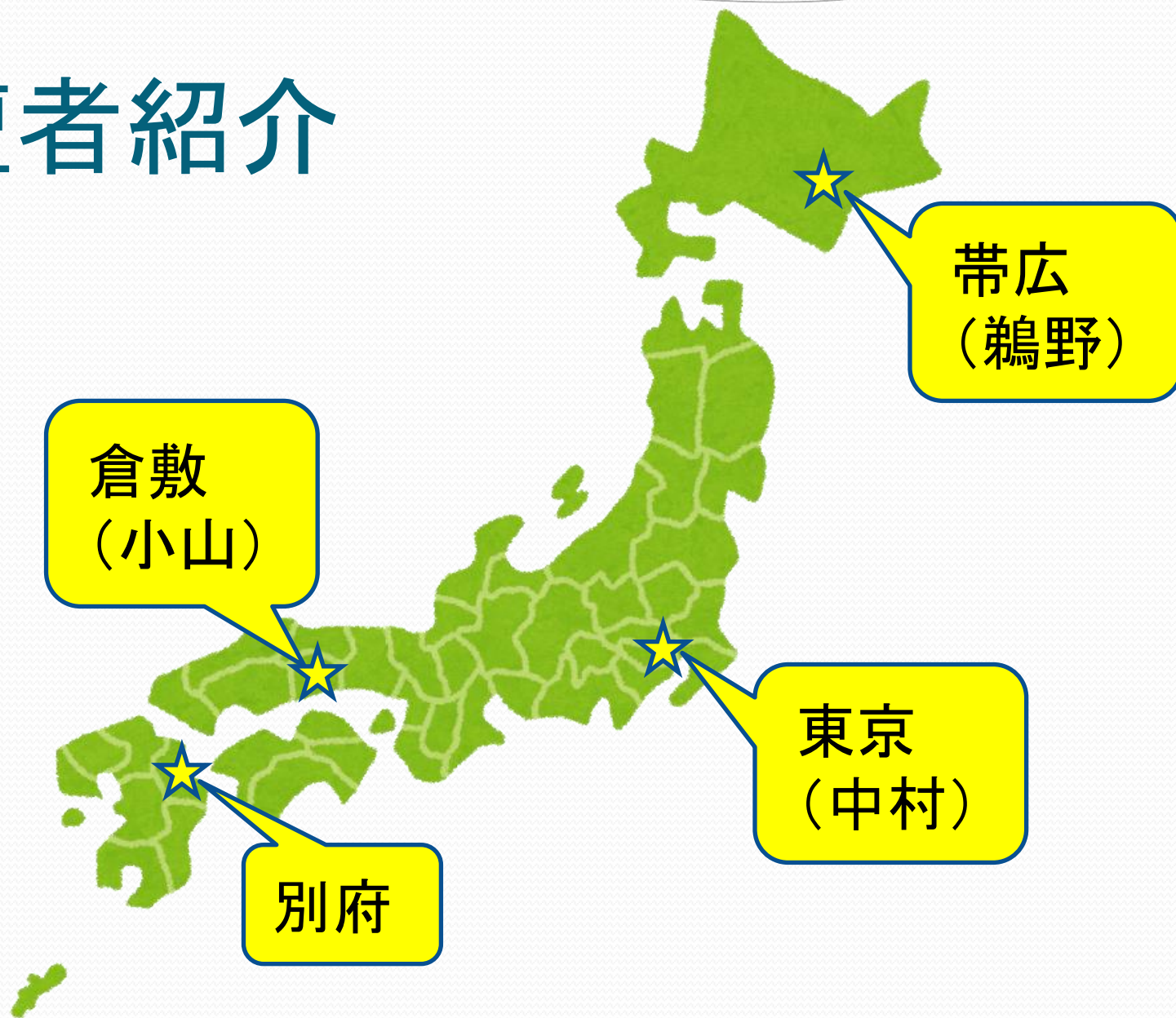
- 中村 光則

- 株式会社フジクラエンジニアリング

- 小山 海平

- 株式会社倉敷ケーブルテレビ

登壇者紹介



進行

1. 素材を使い切れてない例(中村さん)
2. 「使い切る」レシピ(小山さん)
3. クロストーク(not漏話)
4. 会場質疑
5. まとめ

スコープ外

- 経営
- 組織論
- ISP (に特化した話はしない)

1. 「素材」を使い切れてない例 を聞いてみる

2. 「使い切る」レシピを 聞いてみる

3. クロストーク(テーマ)

- 地域の「もったいない」「使い切る」を考える
- 「旬の素材を生かす」地域のエンジニア

キーワード

「もったいない」「使い切る」「旬の素材を活かす」

地域の
インフラ

地域を
超える

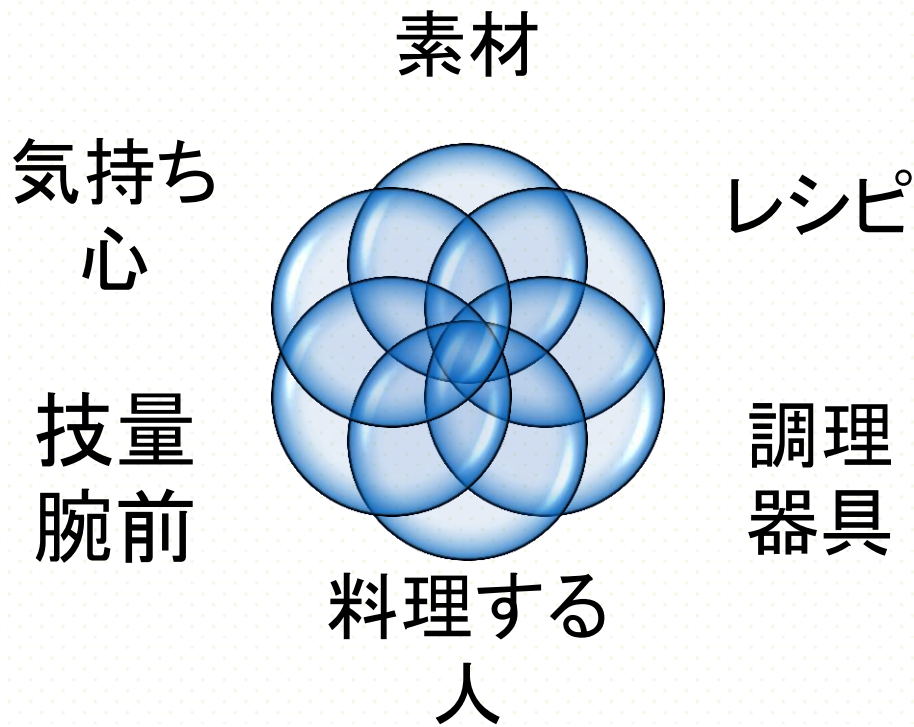
地域の
腕前

地域
活性化

地域力

地域を
和える

クロストーク (図: 地域の腕前、地域を和える)



4. 会場質疑

- 皆さんが考える(地域の)「もったいない」
- 実践している(地域の)「使い切り」
- 皆さんはどのように(地域の)「旬」を目利きしていますか？

5. まとめ

- 地域の「もったいない」「使い切る」思いは重要
- レシピや本質はエンジニアとして共有したい
- 地域の旬の発掘と活用術は、地域で生きるエンジニア自身の腕の見せ所

最後に

ご登壇頂いた、中村さん、小山さん

初発表で様々なサポートをして頂いた、
プログラム委員の皆様

ありがとうございました！

ご静聴ありがとうございました！